

「星の日」制定に大賛成

天理市立福住中学校 3年 遠木 鈴華

「満天の星」この言葉が死語になる日が近いうちに来るのではないか、今私はそれを心配しています。私の住んでいる町は鉄道がなく、コンビニもないのが不便ですが、悪いことばかりではありません。豊かな森林に囲まれ、美しい川が流れ、夜には源氏ボタルやそれより少し小さい平家ボタルも飛び交い、天の川も見えます。9月には月をめぐる観月会が催されます。

今年の七夕もあいにくの雨で、天の川を見ることができませんでした。しかし、最近、晴れていても、日本人口の約7割が天の川を見ることができないとインターネットのニュースで知り、大変驚きました。

光害、と聞くと「おおよけのがい」を想像する人が多いと思いますが、そうではなく、「ひかりのがい」と書きます。光害は、照明などの過剰な光で夜空が明るくなりすぎ、天体観測にも悪影響を及ぼすなど、世界中で起きている問題だそうです。

そういえば宇宙から見た夜の日本の映像が都市部を中心に異常に明るくてびっくりしたことがあります。日常生活はどんどん便利になり、得るものが大きくなった分、失ったものも大きいのではないのでしょうか。その一つに自然の光があると私は思います。

百人一首には月が詠まれた歌が多く、また、「枕草子」には次のように書かれています。

「夏は夜。月のころはさらなり。やみもなほ、螢の多く飛びちがひたる。」

最近学習した「月の起源を探る」という文には、月が地球の誕生とほぼ同時期に誕生したということが書かれていました。私たち日本人は昔から月や星、螢などの自然の光に親しんできました。そして、そんな日常生活の中から優れた文学も生まれたのです。

しかし、今の私たちはいつまでも明るい夜に慣れてしまい、自然の光を忘れがちではないのでしょうか。また、自然に親しむ機会

も減っているように思います。でも、そのことに疑問を感じている人は少ないようです。

そんなことを考えていた時、新聞のある投書欄が目にとまりました。「元々七夕は旧暦の7月7日、現在の8月に該当する。8月のどこかを国民の休日、『星の日』にしたらどうだろう。」と述べる20代男性の意見です。

私は、この意見に大賛成です。8月は夏休みで、家族が揃う日が比較的、多くなります。「星の日」を設け、その日の仕事は休み、夜9時には電気を消して、家族揃って夜空をのんびり眺めてみてはどうでしょう。お茶でも飲みながら星の話をするのも、ロマンチックだと思いませんか。

また、その日は全国的に夜9時から消灯すると決めたら、節電にもつながります。24時間営業のスーパーやコンビニは便利ですが、その日1日ぐらいい早めに営業を終えましょう。今まで天の川が見えなかった7割の人が、もしきれいな天の川を見ることができたら、きっと感動するはずですよ。そして、地球や月が誕生した宇宙の神秘について思いをはせ、もっと地球を大切にしようと考えてみましょう。

私たちが心を合わせて一斉に電気を消すことで、今まで存在していたけど見えていなかった満天の星が、日本の夜空いっぱいに広がります。「星の日」はスマホもネットもテレビもやめて、静かに夜空を眺めれば、一人でいたとしても、いろいろなことを考える機会にもなるでしょう。

「星の日」は、一石二鳥どころか、三鳥にも四鳥にもなる可能性を秘めています。もし実現したら、私が今まで見たことのない満天の星が見えるかもしれないと思うと、わくわくします。どうか「星の日」が国民の休日になりますように。今日も私は星に願いを込めて夜空を見上げます。